

今、注目を集めているリニア中央新幹線の駅が相模原市に設置されます。神奈川県をはじめとする地元の自治体が、リニア中央新幹線とともにさらに地域の活性化を図るために、東海道新幹線新駅の誘致の取り組みを進めています。そのPRの一環として、「女子大生からの目線で広報パンフレットを作ってほしい」という依頼を受け、学芸学部メディア情報学科の学生たちが「都市づくりNEWS」の特別号「かながわ県央・湘南 魅力発見旅！」の作成に取り組みました。

「広報パンフ」の取材で地域を訪問。 その経験を地元のPRに活かす。

私たちはゼミの田畑先生から紹介され、「広報パンフレット」作成のための取材、撮影、原稿作成を担当することになり、パンフレットの目的を「地域の紹介」「地域のPR」にしました。

自治体の方に紹介されて10市町・約30カ所て話を聞くことができました。多くの場所でさまざまな活動を行っている方々のお話を伺うことができました。農業高校の高校生が行っている豚の品種改良、組み紐を作っている会社でデザインをしている女性や、障がい者の自立支援施設で絵を描いているアーティストの方など、多くの方々が地域で生き生きと活躍していました。

これは実際に行ってみないと分からないことばかりです。その経験でパンフレットは、この地域が「優しい町、暮らしやすい町」であることをアピールするという発想が生まれました。

約2カ月をかけ皆で分担して取材、原稿の作成を行いました。後で「もっと聞いておけば良かった」と少し悔いもありましたが、大いに学んだ2カ月でした。

学芸学部 メディア情報学科
左から

横田あゆみさん
茂村光紗さん
佐々木愛理さん
加藤楓さん
春本つぐみさん



先輩からの
アドバイス

気楽に開いて読める、あるいはじっくり読むという柔軟な発想。

学芸学部 メディア情報学科 教授 田畑雅英

——パンフレットを作る時、学生の発想はどうでしたか。

例えば「パンフレットは『この方法で、このようなものを作る』ことが大事」となって「答えは1つ」と考えてしまいがちです。でも学生たちは、もっと柔軟に、自分の目線を大事にしていました。

——例えばどういうところですか。

学生たちは気楽に開いて、拾い読みをしてもいいし、しっかり読んでもいい、という方向で考えることを考えたようです。それでも取材の時は「新幹線新駅のための地域PR」の目的を忘れずに、いつも念頭に置いているような話をまとめようとしていました。それには大変感激しました。



先輩からの
アドバイス

皆で作る難しさと出来上がったときの楽しさを感じる。

学芸学部 メディア情報学科 専任講師 塚本千晶

——今回のプロジェクトは、学生にどのようなことに気をつけて指導されましたか。

それぞれの培ってきた発想力を活用させることです。今まで学習したデザインの基礎、グラフィックソフトを使いこなす技術、さらに色彩やレイアウトの感覚を応用して表現できるよう指導しました。

——学生の反応はどうでしたか。

皆で話し合いながらデザインを決め、ひとつのプロジェクトを完成させる喜びを味わえたと思います。困難な場面においても目標に向かってコミュニケーションを取る姿が見られました。

